
進路ニュース **みらい** 45号

広島市立広島特別支援学校 進路指導部 広報係

高等部第1学年 ～自分を知る～

高等部第1学年では、「自分を知る」をテーマに進路学習や職場見学に取り組んできました。自分の長所や適性をじっくり考え、高等部第2学年の先輩の話聞き、仕事を体験したり自分の目で職場を見学したりする学習を積み重ねた後で、いよいよ実際に卒業後の生活を校内で体験してみる「校内実習」を1月に実施しました。

1月24日～28日の5日間、「リサイクル」「かきの殻通し」「しいたけの菌打ち」「マドレーヌ」「縫製」「清掃」の6つの班に分かれて実習を行いました。これまで作業学習等で培ってきた力が種目の違う5日間連続の作業で発揮することができるかどうか、生徒一人一人がそれぞれ目標をもって実習に臨みました。普段の学校生活とは違う生活リズム、新しいメンバーと作業種目の中で緊張感をもちながら、他の生徒と共に活動する喜びや自分たちが作った製品を買ってもらったり、使ってもらったりする充実感や達成感を味わうことができました。実習を終えて各班の発表の中で、「挨拶や返事がしっかりできるようになった」「時間を意識して行動できるようになった」「工程表を見なくても自分一人ですることができるようになった」など笑顔で自信たっぷりに発言する生徒の姿をたくさん見ることができ、大きな成果のある取組となりました。

また、2月24日には、「高3先輩から学ぶ」と「余暇活動について」の学習を行いました。「高3先輩から学ぶ」では2人の先輩の進路選択や実習への取組、学校生活の様子など聞くことで自分自身の進路や今後何に取り組んでいくべきかを考える機会となりました。2人とも、一つ一つの進路の取組ごとに成果と課題をしっかりと振り返り、出てきた課題を日々の学校生活の中で意識して取り組んでいたところに学ぶことが多かったように思います。「体力を付けておくこと」「挨拶や返事をきちんとする習慣を付けること」「最後まであきらめないで努力すること」「友達と仲良くすること」を最後に後輩に送るメッセージとしてプレゼントしてもらいました。

「余暇活動について」ではもみじ作業所の和太鼓グループの演奏を聴いたり、楽しく交流したりすることで、余暇の活動を通して卒業後の生活がより豊かになることをイメージできたのではと感じます。

3月には、まとめの学習を行い、1年間をじっくり振り返りながら第2学年への取組につなげていきたいと考えています。

高等部第2学年 ～社会へチャレンジ～

高等部第2学年では「社会へチャレンジ」をテーマに進路学習や職場見学、職場体験実習に取り組んできました。

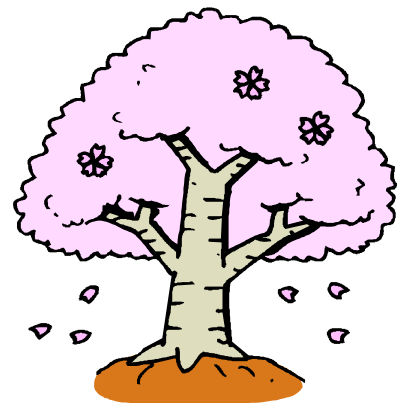
9月から始まった職場体験実習も2月末で全ての実習が終了しました。これまでになく長期にわたる実習でしたが、生徒も頑張り、それぞれがやりきった達成感を得ることができたようです。また、成果と同時に課題も明らかになってきました。それぞれが課題を踏まえ、卒業後の進路に向けて、日々取組を進めていきます。

第3学年では「卒業後の願う生活に向けて」をテーマに進路学習や職場実習などの取組をします。これから、卒業後の新生活にスムーズに移行していけるようしっかり支援していきたいと思えます。今後とも、保護者の方の御協力をよろしくお願いいたします。

高等部第3学年 ～卒業後の願う生活に向けて～

高等部では、一人一人の生徒が、地域の中で生きがいをもって豊かに生活することを目指し、希望する進路（生き方）の実現に向けて、指導や支援を行う。を目標に取り組んできました。

3年生では、目の前に迫ってきた卒業後の進路決定に向け、この1年間緊張感をもった取組になりました。保護者へは、4月に進路説明会、進路に関する調査、職業相談の実施。6月には、高等部全体での進路ガイダンス説明会。11月には、自立支援給付に関わっての研修。そして、生徒においては5月後半から毎週のように誰かが実習に出ていました。施設、作業所、デイサービス、企業とそれぞれが自分の希望する進路に向けて、精一杯頑張ってきました。進路学習や日々の生活の中で、自分の課題に真剣に向き合い、頑張っている姿を見ることもありました。生徒の前には、厳しい現実が待っています。今までとは違うまったく新しい環境の中で、これまでに付けてきた力を信じ、力一杯生きていってほしいと思えます。学校から社会へ、子どもから大人へ、よりスムーズに安心して移行できるよう、関係機関と連携をとりながら、見守っていききたいと思えます。



進路コーディネーター

地域生活・就労支援ネットワーク会（2/14）と高等部就職支援連携会議（2/24）は、本校の児童・生徒の進路指導や生活支援などに日頃から協力をさせていただいている 8 つの相談機関や施設の方の参加による会です。また PTA の代表にも参加をしていただきました。

会の中では、夏季休業中に行った生活支援相談会の成果や相談会以降の具体的な支援への取組と課題について報告を行いました。相談会后、福祉サービスを受けたり、相談を継続したりと取組があったケースが増え、生活支援相談会の成果と今後の必要性を感じました。また、公開授業研へ参加していただいたネットワーク委員の方から感想などをいただき、学校生活から社会への移行というなかで必要な力についての意見交換などもしました。

今年度 2 回目の高等部就職支援連携会議では、ハローワークなど 8 つの就労支援機関の関係者に参加をしていただいて、3 年生の就職状況や今年度の取組の反省と課題について報告を行いました。就職をするために必要な「社会性」「基礎体力」などについても意見交換を行いました。

また、来年度からの高等部の進路の取組や実習についての意見交換を行い、職場開拓などの情報提供や実習時のサポートなど、より一層の連携の必要性を感じました。



本年度の進路指導を振り返って

春の足音が少しずつ聞こえてくる 3 月。来年度に向けての準備が始まっています。

高等部第 3 学年は、卒業を間近に控えて学校での取組や支援が新しい進路先でも効果的に引き継がれることを願い、担任が進路先を訪問して引き継ぎ会を行っています。

本校高等部を巣立っていく生徒たちの卒業後の就労や生活がスムーズに移行されていくこと、幸多きことを心より願っています。

高等部第 2 学年は、卒業後の進路を具体的に話し合う個別進路懇談会を前に、また、高等部第 1 学年は校内実習を終えて第 2 学年で実施される職場体験実習を見据えて、今年度の取組が来年度へ生かされるように個別の移行支援計画の評価を行っています。

中学部は今年度、キャリア教育の中核をなす進路学習の充実を目指して、実践を積み重ねました。更に 12 年間の系統性を考慮した進路学習を目指して反省や課題の整理を行っています。

さて、3 月 3 日に高等部第 1,2 学年の保護者対象の進路研修会の中で、第 3 学年の進路決定までの取組の報告が行われました。過去最多の 55 名の進路決定までの取組は予想通りに大変厳しいものでした。デイサービスや施設の充足状況に大きな改善はなく、待

機生活をどう過ごすかを考えることを余儀なくされるケースが依然として多く、一般就労においても厳しい雇用状況が続き、多くの関係機関との密接な連携の中で職場開拓が行われました。

生徒一人一人に適した、生き生きと働く場が、生活する場が、選べるだけ欲しい！！そんな社会にならないかと願ってやみません。

今年度、高等部の生徒たちは第3学年を筆頭に大きな成長を見せたと実感しています。

本校が現在、研究と実践を進めているキャリア教育の視点を踏まえた教育活動が成果を見せ始めているのだと確信しています。来年度も卒業後の生活を見据えて、どのような力を付けていくのかを具体化させて、学校と家庭と地域が協力して取り組み、生徒一人一人の力を高めていくことで進路を切り開いていきましょう。必ず道は開けると思いますが、また、保護者の方の協力を得ながらの職場開拓も必要になってくるのではないかと感じています。

今年度も本校の進路指導について、幾多のお願いをしまいましたが、いつも温かく御協力いただきありがとうございました。末筆ながら、お礼申し上げます。

来年度もどうぞよろしく願いいたします。

《進路指導部長》